高等学校 × 特別活動

特別活動どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。



変わる所 7項目　解説PDF 1件

10秒でいうと

ホームルーム活動（小中は学級活動）を「学級経営の要」に。キャリア・パスポート例示資料は廃止

高校でも、生徒が身近な社会をよりよく創る「社会創造」の視点で特別活動を見直す方向です。ホームルーム活動は「学級経営の要」として、生徒指導の土台の役割もはっきりさせます。生徒会活動には学校運営への「意見表明」を書き込む案です。「合意形成」と「意思決定」の意味も整理されました。キャリア・パスポートは、国の例示資料を廃止する方向で見直されます。

どこが変わる？現行⇔次期（高等学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

学級活動（ホームルーム活動）の項目名

現行

（1）学級や学校における生活づくりへの参画、（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全、（3）一人一人のキャリア形成と自己実現。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

（1）学校や学校における**生活の創造**、（2）**日常生活における自己の成長と健康安全**、（3）**将来に向けた自己の成長とキャリア形成**（いずれも案）。

P354 ※現行の項目名は資料編m4 P165。（2）から「適応」の語が外れる点はP351の用語整理とも関係。

学級活動（1）ア

現行

学級や学校における生活上の諸問題の解決（否定的な状況の改善に限ってとらえられがちと指摘）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

学級における生活づくりへの参画（アは学級内の課題、ウは学級を越えた学校の課題と区別。ウも学級での話合いが原則）とする案。

P354

三つの視点

現行

人間関係形成・社会参画・自己実現。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

人間関係形成を基盤に、**社会創造**・自己実現が**往還的**に高まる関係として整理（「社会参画」を「**社会創造**」に）する方向。

P352

評価の仕方

現行

知識・技能、思考・判断・表現、
主体的に学習に取り組む態度ごとに
目標に準拠した評価を行い、
各活動ごとに十分満足できる
場合に「○」。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

3つの柱に分けた目標準拠の評価は
行わず、「学びに向かう力」を
一体的に**個人内評価**。**成長が特に顕著な場合**に「○」を付記。
形成的評価・自己評価・相互評価を
重視（案）。

P361

キャリア・パスポート

現行

事務連絡（H31）にもとづく様式例
（例示資料）を参考に各学校が
作成・蓄積。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

例示資料を廃止し、見通し・
振り返りのための多様な取組へ
見直す方向。蓄積は
クラウド上などでの**個人管理**を
基本とし、学校による**引継ぎは求めない**方向。

P359 P95 ※現行の位置付けは資料編m4 P174・P175による。

児童会・生徒会活動の役割

現行

児童会・生徒会の役割として
「学校行事への協力」が
規定されている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「学校行事への協力」を見直し、
校則など生活上の課題について
子供が提案し、教師等との話合いを
通して**学校運営に関わる**など、
学校運営への**意見表明**の記載を
設けることが適当とされた。

P355

学校行事の種類（文化的行事）

現行

「文化的行事」。学習発表会は解説で
具体例として挙がっている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

学習発表会の要素を名称に加え
「**文化・学習発表的行事（仮称）**」
とする案。

P357

現行の解説を読む（公式PDF）

いまの高等学校の特別活動の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **特別活動編**
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編

学習指導要領の本文

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

もっとくわしく

特別活動の変更点（くわしく） 新旧比較（全校種） 高等学校の先生へ
資料室（高等学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。